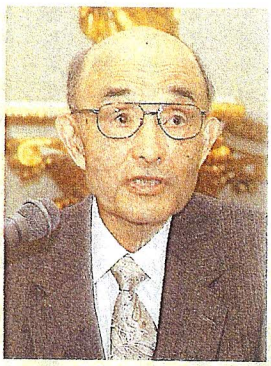
がん治療最前線

がん免疫細胞治療

副作用ゼロで生活の質を守る「がん免疫細胞BAK療法」



公益財団法人仙台微生物研究所
代表理事　免疫療法センター長
仙微研クリニック院長

海老名 卓三郎

えびな・たくさぶろう／東北大学医学部卒、同大大学院医学研究科修了。医学博士。米国ペンシルバニア大学ウイスター研究所留学。東北大学元学長で制がん抗生物質ネオカルチノスタチン発見者・石田名香雄氏の薫陶を受け、がん医療に邁進。宮城県立がんセンター研究所免疫学部長、東北福祉大学健康科学部教授などを経て、平成19年より現職。

がんの「免疫細胞療法」とは、病原体などの異物を排除する自分自身の免疫機能を活性化し、がん細胞への攻撃力を高める療法だ。

「免疫の主力は、白血球のうちNK細胞、γδT細胞、キラーT細胞の3つです。特に前二者は、生命維持に必須の免疫系・精神神経系・内分泌系の3機能を持つ多機能統合細胞で、CD56陽性細胞とも呼ばれる優れもの。極めて高い殺傷能力があります」と語るのは、仙台微生物研究所・免疫療法センター長の海老名卓三郎先生。特許を持つ『BAK療法』※は、患者さんの血液20mℓを生物製剤と特殊培地で培養。CD56陽性細胞を徹底活性化した上、百億個まで増殖し、点滴静注で体内に戻すもので、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」の厳しい基準に東北地方で初めて合格・認定された。

「1㎝の腫瘍のがん細胞は十億個ですから確実に縮小・消失できますし、それ以上の腫瘍でも増殖を抑えることで、症状緩和が可能」

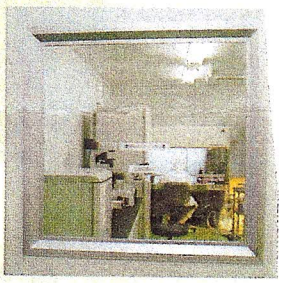
しかもがん細胞だけを確実に狙い撃つため副作用はゼロ。抗がん剤のように耐性ができて効かなくなる心配もないという。

「BAK療法が目指すのは〝がんと共生〟して長生きすること。進行・転移・再発がんでは、抗がん剤や放射線療法の副作用に苦しむ方が後を絶ちません。BAK療法は体に負担をかけずに腫瘍をコントロールするので、一人ひとりの生活の質を守り、納得のいく余生を過ごすことができるのです」

平均延命は、5年生存率が約5%と厳しい高度進行肺がん患者70名で、51・1ヶ月の実績があり、頭頸部がん、子宮がん、乳がん、前立腺がんでも高い効果が望めるという。

治療は月に各1回の採血・投与で、4カ月が1クール。研究所は公益財団法人のため、費用は〝研究賛助金〟実費として、1クール60万円だ。〝寄付〟に該当するため、確定申告では所得控除の対象。体と心と家計にも優しいがん療法である。

※特許・独立行政法人科学技術振興機構（JST）の有用特許



クリーンな培養室。独立行政法人・医薬品医療機器綜合機構（PMDA）施設調査を受け、東北地方で第1号の「特定細胞加工物製造許可証」を得ている。

CLINIC DATA

提供　公益財団法人　仙台微生物研究所
免疫療法センター・仙微研クリニック

アクセス ▶タクシー：仙台駅から約20分 ▶バス：仙台市営バス「仙台駅前15番」南吉成団地線「南吉成一丁目」または「実沢営業所」行、「南吉成五丁目」下車、徒歩5分。

〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成6-6-6 TEL.022-303-3044 FAX.022-303-3064 http://www.senmax.net/senbiken